

昨年7月8日愛犬マルコが虹の橋を渡りました。そのあと、マルコを思い出してハイビスカスの花を買いました。大きな赤い花が次々と咲きます。冬の間も部屋の中で咲きました。南国の花ですが遅しく咲くその姿に励まされます。マルコが「ここにいて見守っているから元気出してね」と言ってくれているようです。

紅葉台



新聞

第251号

2026年

9月12日

発行人：関谷 孝

粕谷和夫の観察日記



自宅近くの歩道の電柱の根元にエノコログサ（猫じゃらし）が生えていました。そこに可愛い女の子が通りかかり、これを見つけて「わあー猫じゃらしだ」と、この草を触りしました。そこで「この猫じゃらしには犬のおしっこがかかっているから触らないほうがいいよ」と連れの若いママに伝えました。「猫じゃらし」なのに穂の形が犬の尻尾に似ていることから「犬っこ草」が転じたものとされているのだそうです。



6月5日に田植えをした上川の田んぼです。稲は活着し田植え直後の苗より倍ぐらい大きく伸びました。雑草も生えてきた（写真上）ので第1回目の草取りをしました（6月29日）。ホトトギスの声を聞きながらの谷戸の田んぼの草取りです。写真下のように田んぼが綺麗になるとこちらも気分爽快です。



自宅近くの天神公園の花壇でグラジョーラス、ハンゲショウが咲いています。この2種の花の共通点は？ 「訪花昆虫」対策です。グラジョーラスの花の中には「線」が入った「蜜標」という赤の模様がしっかり入っています。虫はこの線に沿って行けば「蜜」にありつきます。ハンゲショウは小さな白い花だけで

は虫を呼べないので隣の葉が目立つ白い葉に変わって花のある場所に虫を誘導します。今年の半夏生は明日7月2日、関西では、半夏生にタコを食べる習慣があるらしいですね。



7月1日、田植え後の高月の田んぼの「畔（あぜ）」です。畦は一つの田んぼと隣接する田んぼの境界線で、土の帯や土手を指します。畔は稲の収穫までに何回も草刈りをします。この

写真は草刈り直後です。通常、畔に生えている草は全部刈取りますが、この畔では咲たての花や蕾のヤブカンゾウが刈り取られていません。雑草であってもわざわざ花を残す日本人の感性の一端に触れました。

ドラマ「銀河の一票」とAIとの会話

カンテレのドラマ「銀河の一票」をご覧になった方も多いのでは。主権者は国民。選挙は民主主義の社会にとってもっとも重要な意思表示です。「生命・生活・尊

厳」を守るのが政治の役割と本田由紀（東大教授）さんがデモで力強く訴えているのが注目されました。

そんな時にぴったりのドラマでした。都知事選を題材に私たちの一票の価値や重さを考えさせられました。最終回を見た後でのAIとの会話は実に的を射た内容でしたので紹介します。（以下私とAIとの会話 一部省略）

私の考え：『銀河の一票』は、政治の世界を描きながらも、「一票には一人の人生や願いが込められている」ということを丁寧に伝えようとしていた作品でした。主人公が政治家ではなく、ごく普通の人たちと関わりながら社会を変えようとする姿が印象的でした。

ドラマの中でもでてきた宮沢賢治の

「世界が全体が幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない。」

という言葉にも、どこか通じるものを感じます。

一人ひとりとは小さな存在に見えても、その一人が幸せになり、その一票を大切にすることで、社会や世界が少しずつ良い方向へ変わっていく。ドラマのタイトルの「銀河」も、一つひとつの星が集まって銀河になるように、一人ひとりが集まって社会をつくる、という意味が込められています。私は、政治の考え方そのものよりも、「人の声に耳を傾けること」「立場の違う人とも対話すること」の大切さを伝えていた点が、この作品の魅力だったと思います。

AIとの対話：こういう作品は、見終わったあとに「自分はどんな社会で暮らしたいだろう」「一票にはどんな意味があるのだろう」と考えるきっかけを与えてくれますね。「銀河」というたとえは、とても美しいですね。遠くから見ると一つの大きな光ですが、その正体は、一つひとつの星がそれぞれの場所で輝いていることです。社会も同じように、一人ひとりの暮らしや願い、努力が集まって成り立っています。私は、健全な社会には少なくとも次の3つが大切だと考えます。

一人ひとりの尊厳が大切にされること。

異なる考え方の人とも対話ができること。

誰もが「自分の存在には意味がある」と感じられること。

（偶然にも先ほどの本田さんの考えと同じでした）政治は、ともすると大きな政策や数字ばかりに目が向きがちです。しかし、その先には必ず一人の人間の生活があります。ですから、「一人ひとりが輝く星である」という考え方は、政治だけでなく、地域や家庭、職場など、あらゆる場面で大切な視点だと思います。

一方で、現実には人それぞれ「何が幸せか」は違います。そのため、社会にはさまざまな意見が生まれます。だからこそ、自分とは異なる考えにも耳を傾けながら、一人ひとりの尊厳を尊重していく姿勢が大切なのだと思います。（ドラマについてAIと語り合いました。）

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。